

対象校No.  
注4

学校コード F128310108810  
注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 学部の学科の設置  
注1

認可

注2  
宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 看護学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書  
(改正前大学設置基準適用)

学校法人平成医療学園  
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	学長企画室
職名・氏名	ガクキカクシツチョウナカツカ カツヒロ 学長企画室長 中塚 克浩
電話番号	072-736-8600
(夜間)	072-736-8659
e-mail	gakukika@tumh.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。  
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( ) 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。  
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、  
該当番号を記載してください。

# 目次

和歌山保健医療学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	34

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人平成医療学園

## (2) 大学名

宝塚医療大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒666-0162

兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(キシノ マサミ) 岸野 雅方 (平成13年4月)		
学長	(キシノ マサミ) 岸野 雅方 (平成27年11月)		
学部長	(キシオカ シロウ) 岸岡 史郎 (令和2年4月)		
学科長等	(セキド ケイコ) 關戸 啓子 (令和4年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。  
 ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。  
 ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
和歌山保健医療学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	50 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	200 人	-	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。  
 ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。  
 (学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	50人 ( ) [ ]	0人 ( ) [ ]	50 ( ) [ ]	0人 ( ) [ ]	50 ( ) [ ]	0人 ( ) [ ]	50 ( ) [ ]	0人 ( ) [ ]	-	0.95倍	-	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	148 ( ) [ ]	( ) [ ]	138 ( ) [ ]	( ) [ ]	93 ( ) [ ]	( ) [ ]	60 ( ) [ ]	( ) [ ]				
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	141 ( ) [ ]	( ) [ ]	113 ( ) [ ]	( ) [ ]	89 ( ) [ ]	( ) [ ]	59 ( ) [ ]	( ) [ ]				
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	81 ( ) [ ]	( ) [ ]	80 ( ) [ ]	( ) [ ]	72 ( ) [ ]	( ) [ ]	59 ( ) [ ]	( ) [ ]				
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	56 ( ) [ ]	( ) [ ]	53 ( ) [ ]	( ) [ ]	43 ( ) [ ]	( ) [ ]	48 ( ) [ ]	( ) [ ]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	1.21		1.06		0.86		0.96					

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。  
 ・( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(( ))書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。  
 該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・転入学生は記入しないでください。  
 ・[ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。  
 春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。  
 ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。  
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)  
 ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。  
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。  
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。  
 ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	56	-	53	-	43	-	48	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
2年次			-	-	-	-	56	-	53	-	41	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( 1 )	( - )	( 1 )	( - )	
3年次					-	-	-	-	56	-	47	-	
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( 1 )	( - )	
4年次							-	-	-	-	55	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-	56	-	109	-	152	-	191	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( 1 )	( - )	( 2 )	( - )	

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。  
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	56 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	109 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	152 人	9 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	5 人	0 人	修学意欲の低下(3人)、就職(2人)
			令和6年度	4 人	0 人	修学意欲の低下(2人)、他の教育機関への入学・転学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)
令和7年度	191 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		9 人		9 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。  
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。  
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。  
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{56} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{109} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{9}{161} = \boxed{5.59} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{191} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<和歌山保健医療学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部 共通科目	哲学	1前	2								兼1
	東洋思想論	1前	2								兼1
	日本の文化	1後	2								兼1
	文化人類学	1後	2								兼1
	日本国憲法	1前	2								兼1
	社会と法	1後	2								兼1
	社会福祉学	1前	2								兼1
	わかやま未来学	1後	2								兼1
	統計学	1前	2								兼1
	数学	1前	2								兼1
	物理学	1後	2								兼1
	化学	1前	2								兼1
	生物学	1後	1								兼1
	英語	1前	1								兼1
	医学英語 I	1後	1								兼1
	医学英語 II	2後	1								兼1
	英会話	1後	1								兼1
	情報処理演習 I	1前	1								兼1
	情報処理演習 II	1後	1								兼1
	健康と体力づくり	2前	2								兼1
スポーツトレーニング学	3前	2								兼1	
健康トレーニング演習	2後	1								兼1	
体育実技 I	1後	1								兼1	
体育実技 II	2前	1								兼1	
コミュニケーション演習	1後	1								兼1	
心理学	2後	2								兼1	
医療経営学	4後	2								兼1	
メディカルツーリズム論	2前	2								兼1	
伝統医療論	1後	2								兼1	
基礎ゼミナール	1前	1			2	1	1	1			
小計(30科目)	-	14	34	0	2	1	1	1	0		15
専門 基礎科目	解剖学 I	1前	1								兼1
	解剖学 II	1後	1								兼1
	生理学	1後	1								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	臨床栄養学	1後	1			1					
	薬理学	1後	1								兼1
	病理学	1後	1								兼1
	微生物学	1後	1								兼1
	看護物理学	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 I (成人急性期)	2前	2								兼1
	病態生理・治療学 II (成人慢性期)	2前	2								兼1
	病態生理・治療学 III (老年)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 IV (小児)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 V (母性)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 VI (精神)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 VII (リハビリテーション)	2後	1								兼1
	公衆衛生学	3前	1								兼1
	疫学	3前	1								兼1
	関係法規	1後	1								兼1
	社会保障制度	2前	2			1			1		兼1
医療情報学	1後	1								兼1	
人間関係論	1前	1			1						
カウンセリング論	3前	1			1						
小計(23科目)	-	24	2	0	2	0	0	1	0		15

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部 共通科目	哲学	1前	2								兼1
	東洋思想論	1前	2								兼1
	日本の文化	1後	2								兼1
	文化人類学	1後	2								兼1
	日本国憲法	1前	2								兼1
	社会と法	1後	2								兼1
	社会福祉学	1前	2								兼1
	わかやま未来学	1後	2								兼15
	統計学	1前	2								兼1
	数学	1前	2								兼1
	物理学	1後	2								兼1
	化学	1前	2								兼1
	生物学	1後	1								兼1
	英語	1前	1								兼1
	医学英語 I	1後	1								兼1
	医学英語 II	2後	1								兼1
	英会話(未開講)	1後	1								兼1
	情報処理演習 I	1前	1								兼1
	情報処理演習 II	1後	1								兼1
	健康と体力づくり	2前	2								兼1
スポーツトレーニング学(未開講)	3前	2								兼1	
健康トレーニング演習(未開講)	2後	1								兼1	
体育実技 I	1後	1								兼1	
体育実技 II	2前	1								兼1	
コミュニケーション演習	1後	1								兼1	
心理学	2後	2								兼1	
医療経営学(未開講)	4後	2								兼1	
メディカルツーリズム論(未開講)	2前	2								兼1	
伝統医療論	1後	2								兼1	
基礎ゼミナール	1前	1				2	1	1	1		
小計(30科目)	-	14	34	0	2	1	1	1	0		30
専門 基礎科目	解剖学 I	1前	1								兼1
	解剖学 II	1後	1								兼1
	生理学	1後	1								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	臨床栄養学	1後	1					1			
	薬理学	1後	1								兼3
	病理学	1後	1								兼1
	微生物学	1後	1								兼1
	看護物理学	2後	1						1		兼1
	病態生理・治療学 I (成人急性期)	2前	2								兼4
	病態生理・治療学 II (成人慢性期)	2前	2								兼1
	病態生理・治療学 III (老年)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 IV (小児)	2後	1								兼2
	病態生理・治療学 V (母性)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 VI (精神)	2後	1								兼3
	病態生理・治療学 VII (リハビリテーション)	2後	1								兼13
	公衆衛生学	3前	1								兼1
	疫学	3前	1								兼1
	関係法規	1後	1								兼1
	社会保障制度	2前	2						2		兼1
医療情報学	1後	1							1	兼1	
人間関係論	1前	1							1		
カウンセリング論	3前	1							1		
小計(23科目)	-	24	2	0	1	2	0	0	0		30



【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部共通科目	哲学	1前	2								兼1
	東洋思想論	1前	2								兼1
	日本の文化	1後	2								兼1
	文化人類学	1後	2								兼1
	日本国憲法	1前	2								兼1
	社会と法	1後	2								兼1
	社会福祉学	1前	2								兼1
	わかやま未来学	1後	2								兼14
	統計学	1後	2								兼1
	数学	1前	2								兼1
	物理学	1前	2								兼1
	化学	1前	2								兼1
	生物学	1後	1								兼1
	英語	1前	1								兼1
	医学英語 I	1後	1								兼1
	医学英語 II (未開講)	2後	1								兼1
	英会話	1後	1								兼1
	情報処理演習 I	1前	1								兼1
	情報処理演習 II	1後	1								兼1
	健康と体力づくり	2前	2								兼1
スポーツトレーニング学(未開講)	3前	2								兼1	
健康トレーニング演習	2後	1								兼1	
体育実技 I	1後	1								兼1	
体育実技 II (未開講)	2前	1								兼1	
コミュニケーション演習	1後	1								兼1	
心理学	2後	2								兼1	
医療経営学	4後	2								兼1	
メディカルツーリズム論(未開講)	2前	2								兼1	
伝統医療論	1前	2								兼1	
基礎ゼミナール	1前	1			2	1	1	1			
小計(30科目)	-	14	34	0	2	1	1	1	0	28	
専門基礎科目	解剖学 I	1前	1								兼1
	解剖学 II	1後	1								兼1
	生理学	1後	1								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	臨床実習	1後	1		1						兼2
	薬理学	1後	1								兼1
	病理学	1後	1								兼1
	微生物学	1前	1								兼1
	看護物理学	2前	1								兼1
	病態生理・治療学 I (成人急性期)	2前	2								兼4
	病態生理・治療学 II (成人慢性期)	2前	2								兼1
	病態生理・治療学 III (老年)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 IV (小児)	2後	1								兼2
	病態生理・治療学 V (母性)	2後	1								兼1
	病態生理・治療学 VI (精神)	2後	1								兼3
	病態生理・治療学 VII (リハビリテーション)	2後	1								兼13
	公衆衛生学	3前	1								兼1
	疫学	3前	1								兼1
	関係法規	1後	1								兼1
	社会保障制度	2前	2			1	1				兼1
医療情報学	1後	1								兼1	
人間関係論	1前	1		1							
カウンセリング論	3前	1		1							
小計(23科目)	-	24	2	0	2	1	0	0	0	33	
専門科目	看護学概論	1前	2			1					
	基礎看護技術学 I	1前	2			1	1	1	3		
	基礎看護技術学 II	1後	2			1	1	1	3		
	基礎看護技術学 III	2前	2			1	1	1	3		
	基礎看護技術学 IV	2後	1			1	1	1	3		
	看護過程論	2後	1			1	1	1	3		
	ヘルスアセスメント	2前	1			1					
	基礎看護学実習 I	1後	1			1	4	5	6		
	基礎看護学実習 II	2後	2			1	4	5	6		
	チーム医療論	3前	1			1					
	看護倫理学	1後	1			1					
小計(11科目)	-	16	0	0	1	0	6	4	3	0	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	哲学	1前	2									兼1
	東洋思想論	1前	2									兼1
	日本の文化	1後	2									兼1
	文化人類学	1後	2									兼1
	日本国憲法	1前	2									兼1
	社会と法	1後	2									兼1
	社会福祉学	1前	2									兼1
	わかやま未来学	1後	2									兼14
	統計学	1前	2									兼1
	数学	1前	2									兼1
	物理学	1後	2									兼1
	化学	1前	2									兼1
	生物学	1後	1									兼1
	英語	1前	1									兼1
	医学英語 I	1後	1									兼1
	医学英語 II	2後	1									兼1
	英会話	1後	1									兼1
	情報処理演習 I	1前	1									兼1
	情報処理演習 II	1後	1									兼1
	健康と体力づくり	2前	2									兼1
スポーツトレーニング学	3前	2									兼1	
健康トレーニング演習	2後	1									兼1	
体育実技 I	1後	1									兼1	
体育実技 II	2前	1									兼1	
コミュニケーション演習	1後	1									兼1	
心理学	2後	2									兼1	
医療経営学	4後	2									兼1	
メディカルツーリズム論	2前	2									兼1	
伝統医療論	1前	2									兼1	
基礎ゼミナール	1前	1			2	1	1	1				
小計(30科目)	-	14	34	0	2	1	1	1	0	27		
専門基礎科目	解剖学 I	1前	1									兼1
	解剖学 II	1後	1									兼1
	生理学	1後	1									兼1
	生化学	1後	1									兼1
	臨床実習	1後	1		1							兼2
	薬理学	1後	1									兼1
	病理学	1後	1									兼1
	微生物学	1後	1									兼1
	看護物理学	2前	1									兼1
	病態生理・治療学 I (成人急性期)	2前	2									兼1
	病態生理・治療学 II (成人慢性期)	2前	2									兼1
	病態生理・治療学 III (老年)	2後	1									兼1
	病態生理・治療学 IV (小児)	2後	1									兼2
	病態生理・治療学 V (母性)	2後	1									兼1
	病態生理・治療学 VI (精神)	2後	1									兼1
	病態生理・治療学 VII (リハビリテーション)	2後	1									兼13
	公衆衛生学	3前	1									兼1
	疫学	3前	1									兼1
	関係法規	1後	1									兼1
	社会保障制度	2前	2			1	1					兼1
医療情報学	1後	1									兼1	
人間関係論	1前	1		1								
カウンセリング論	3前	1		1								
小計(23科目)	-	24	2	0	2	1	0	0	0	27		
専門科目	看護学概論	1前	2			1						
	基礎看護技術学 I	1前	2			1	1	1	3			
	基礎看護技術学 II	1後	2			1	1	1	3			
	基礎看護技術学 III	2前	2			1	1	1	3			
	基礎看護技術学 IV	2後	1			1	1	1	3			
	看護過程論	2後	1			1	1	1	3			
	ヘルスアセスメント	2前	1			1						
	基礎看護学実習 I	1後	1			1	3	4	3			
	基礎看護学実習 II	2後	2			1	3	4	3			
	チーム医療論	3前	1			1						
	看護倫理学	1後	1			1						
小計(11科目)	-	16	0	0	1	0	6	4	3	0		



専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1前	1																	兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1																	兼1
	生理学	1後	1																	兼1
	生化学	1後	1																	兼1
	臨床栄養学	1後	1				1													
	薬理学	1後	1																	兼2
	病理学	1後	1																	兼1
	微生物学	1後	1																	兼1
	看護物理学	2後		1																兼1
	病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)	2前	2																	兼1
	病態生理・治療学Ⅱ(成人慢性期)	2前	2																	兼1
	病態生理・治療学Ⅲ(老年)	2後	1																	兼1
	病態生理・治療学Ⅳ(小児)	2後	1																	兼1
	病態生理・治療学Ⅴ(母性)	2後	1																	兼1
	病態生理・治療学Ⅵ(精神)	2後	1																	兼1
	病態生理・治療学Ⅶ(リハビリテーション)	2後	1																	兼1
	公衆衛生学	3前	1																	兼1
	疫学	3前	1																	兼1
	関係法規	1後	1																	兼1
	社会保障制度	2前	2				1						1							兼1
医療情報学	1後	1																	兼1	
人間関係論	1前	1		1			1												兼1	
カウンセリング論	3前	1					1												兼1	
小計(23科目)		24	2	0	2	0	0	0	1	0	0	15								
専門科目	看護学概論	1前	2			1														
	基礎看護技術Ⅰ	1前	2			1			1	1	3									
	基礎看護技術Ⅱ	1後	2			1			1	1	3									
	基礎看護技術Ⅲ	2前	2			1			1	1	3									
	基礎看護技術Ⅳ	2後	1			1			1	1	3									
	看護過程論	2後	1			1			1	1	3									
	ヘルスアセスメント	2前	1			1														
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			1			6	4	3									
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1			6	4	3									
	チーム医療論	3前	1			1														
	看護倫理学	1後	1			1														
	小計(11科目)		16	0	0	2	0	0	6	4	3	0								
	成人看護学概論	2前	2			1														
	成人看護学各論ⅠA(急性期・周手術期)	2後	1			1			1											
	成人看護学各論ⅠB(急性期・救急看護)	3前	1			1			1											
	成人看護学各論Ⅱ(慢性期)	2後	1			1														
	リハビリテーション看護学	3前	1			1														
	高齢者看護学概論	2前	2			2														
	高齢者看護学各論Ⅰ	2後	1			1			2	1										
	高齢者看護学各論Ⅱ	3前	1			1			2	1										
成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性期)	3後・4前	2			1			1											1	
成人・高齢者看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後・4前	2			1			1											2	
成人・高齢者看護学実習Ⅲ(リハビリ期)	3後・4前	2			1			1	2											
成人・高齢者看護学実習Ⅳ(生活支援)	3後・4前	2			1			1	2	3										
成人・高齢者看護学実習Ⅴ(地域連携)	3後・4前	1			1			1		3										
小児看護学概論	2前	2			1															
小児看護学各論Ⅰ	2後	1			1			1												
小児看護学各論Ⅱ	3前	1			1			1												
小児看護学実習	3後・4前	2			1			1												
母性看護学概論	2前	2			1															
母性看護学各論Ⅰ	2後	1			1			2												
母性看護学各論Ⅱ	3前	1			1			2												
母性看護学実習	3後・4前	2			1			2												
精神看護学概論	2前	2			1															
精神看護学各論Ⅰ	2後	1			1					1										
精神看護学各論Ⅱ	3前	1			1					1										
精神看護学実習	3後・4前	2			1			1		1										
地域・在宅看護学概論	2前	2			1															
地域・在宅看護学各論Ⅰ	2後	2			1			1												
地域・在宅看護学各論Ⅱ	3前	2			1			1												
地域・在宅看護学実習	3後・4前	2			1			1	2	3										
緩和ケア	4後	1			1			1												
災害看護学	4後	1			1			1											兼1	
看護管理学	4前	1			1															
感染看護学	2後	1			1															
看護教育学	4後	1			1			1												
看護理論と実践	3前	1			2			1												
地域精神保健学	4後	1			1					1										
国際看護論	4後	1			1														兼1	
看護の統合Ⅰ(演習)	4前	2			8		3	6	4	3										
看護の統合Ⅱ(演習)	4後	2			8		3	6	4	3										
看護の統合Ⅰ(実習)	4前	1			1			6	3	3										
看護の統合Ⅱ(実習)	4前	2			8		3	6	4	3										
看護研究Ⅰ	4前	2			3		1													
看護研究Ⅱ	4後	2			8		3	6	3											
小計(54科目)		59	5	0	8	3	6	4	3	2										
合計(107科目)		-	113	41	0	8	3	6	4	3	32									
卒業要件及び履修方法																				
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上(専門科目から2単位以上)を修得し、合計125単位以上を修得すること。																				
履修登録の上限は、各学期(セメスター)の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。																				

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。

(例：記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・「伝統医療論」については、リハビリテーション学科の「わかやま未来学」の開講時期変更を受け、開講時期を後期から前期に変更した。
- ・「薬理学」については、学部長の負担軽減のため兼任教員との二人担当とした。

【令和5年度】

- ・専任教員の就任辞退の理由により、「看護倫理学」の兼任教員等の配置を専任教員に変更。
- ・専任教員の就任辞退の理由により、「母性看護学概論」の兼任教員等の配置を専任教員2人に変更。
- ・専任教員の就任辞退の理由により、「母性看護学各論Ⅰ」の兼任教員等の配置を専任教員2人に変更。
- ・専任教員の就任辞退の理由により、「感染看護学」の兼任教員等の配置を専任教員3人に変更。

【令和6年度】

科目間の連携と学生の履修順序を考慮して時間割を調整したことにより、配当年次を次の通り変更した。  
「統計学」(1前→1後)、「物理学」(1後→1前)、「微生物学」(1後→1前)

【令和7年度】

科目間の連携と学生の履修順序を考慮して時間割を調整したことにより、配当年次を次の通り変更した。  
「緩和ケア」(4後→4前)

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・認可時又は届出時には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
  - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・「伝統医療論」については、リハビリテーション学科の「わかやま未来学」の開講時期変更を受け、開講時期を後期から前期に変更した。
- ・「薬理学」については、学部長の負担軽減のため兼任教員との二人担当とした。

【令和5年度】

- ・専任教員の就任辞退の理由により、「看護倫理学」の兼任教員等の配置を専任教員に変更。
- ・専任教員の就任辞退の理由により、「母性看護学概論」の兼任教員等の配置を専任教員2人に変更。
- ・専任教員の就任辞退の理由により、「母性看護学各論Ⅰ」の兼任教員等の配置を専任教員2人に変更。
- ・専任教員の就任辞退の理由により、「感染看護学」の兼任教員等の配置を専任教員3人に変更。

【令和6年度】

科目間の連携と学生の履修順序を考慮して時間割を調整したことにより、配当年次を次の通り変更した。  
「統計学」(1前→1後)、「物理学」(1後→1前)、「微生物学」(1後→1前)

【令和7年度】

科目間の連携と学生の履修順序を考慮して時間割を調整したことにより、配当年次を次の通り変更した。  
「緩和ケア」(4後→4前)

- (注) 2(1) ①授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
80 科目	27 科目	0 科目	107 科目	80 科目 [ ]	27 科目 [ ]	0 科目 [ ]	107 科目 [ ]	

- (注)・未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)  
 ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。  
なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。  
なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、  
学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{107} = \boxed{0}\%$$

数式が入力されています。

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備 考	
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		観光学部観光学科の設置に伴う校地の増加及び校地を共有していた和歌山看護専門学校の廃止に伴い、当該専門学校が使用していた校舎面接が大学専用になったことに伴う変更(6)	
	校舎敷地	21,545.11㎡ 46,774.18㎡	3,268.03㎡ 461.21㎡	0㎡	24,813.14㎡ 47,235.39㎡			
	運動場用地	18,912.12㎡ 22,012.12㎡	0㎡	0㎡	18,912.12㎡ 22,012.12㎡			
	小 計	40,457.23㎡ 68,786.30㎡	3,268.03㎡ 461.21㎡	0㎡	43,725.26㎡ 69,247.51㎡			
	そ の 他	12,548.36㎡ 14,034.33㎡	131.97㎡ 201.98㎡	0㎡	12,680.33㎡ 14,236.31㎡			
	合 計	53,005.59㎡ 85,703.92㎡	3,400.00㎡ 663.19㎡	0㎡	56,405.59㎡ 86,367.11㎡			
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		観光学部観光学科の設置に伴う校舎の増加による変更(6)	
		21,568.02㎡ 36,505.98㎡ (18,263.56㎡)	0㎡ (2,592.46㎡)	0㎡ (740㎡)	21,568.02㎡ 36,505.98㎡ (21,596.02㎡)			
(3) 教室等		講義室 29室	演習室 3室	実験実習室 27室	情報処理学習施設 2室 (補助職員 0人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 保健医療学部 看護学科		室 数 20 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含む 図書 21,341 [2,054] 雑誌 70 [17]
	和歌山保健医療学部	32,251 [2,187] (31,431 [2,167])	106 [19] (106 [19])	2 [0] (2 [0])	196 (181)	2,839 (2,513)	39 (39)	
	計	32,251 [2,187] (31,431 [2,167])	106 [19] (106 [19])	2 [0] (2 [0])	196 (181)	2,839 (2,513)	37 (37)	
(6) 図書館		面 積 665.82㎡	閲覧座席数 167	収 納 可 能 冊 数 70,000				
(7) 体育館		面 積 1,504.44㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート1面		多目的グラウンド1面			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	5,130千円	1,850千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	42,066千円	22,960千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 1,750千円	第2年次 1,450千円	第3年次 1,450千円	第4年次 1,450千円	第5年次 0千円	第6年次 0千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等						

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。  
(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	宝塚医療大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	3	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
観光学部	4	100	—	400	—	0.34	—	—	—	—				
観光学科	4	100	—	400	学士(観光学)	0.34	—	—	—	兵庫県宮古島市城辺字福里619番地1 兵庫県尼崎市道意町六				
保健医療学部	4	190	—	760	—	0.66	—	—	平成23	—				
口腔保健学科	4	30	—	120	学士(口腔保健学)	0.20	—	令和7	令和5	兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1 大阪府大阪市北区中津6丁目9-38	令和7年度から入学定員変更(64→30)			
理学療法学科	4	70	—	280	学士(保健医療学)	0.73	—	—	平成23	兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1				
柔道整復学科	4	60	—	240	学士(保健医療学)	0.81	—	—	平成23	同上				
鍼灸学科	4	30	—	120	学士(保健医療学)	0.79	—	—	平成23	同上				
和歌山保健医療学部	4	150	—	600	—	0.79	—	—	令和2	—				
リハビリテーション学科	4	100	—	400	学士(保健医療学)	0.71	—	—	令和2	和歌山県和歌山市中之島2252				
理学療法学専攻	4	60	—	240	学士(保健医療学)	0.82	—	—	令和2	同上				
作業療法学専攻	4	40	—	160	学士(保健医療学)	0.55	—	—	令和2	同上				
看護学科	4	50	—	200	学士(看護学)	0.95	—	—	令和4	和歌山県和歌山市中之島2252 和歌山県和歌山市西庄1107-26				
大学全体	4	440	—	1760	—	0.77	—	—	—	—				

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
  - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。  
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
  - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
  - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の**学科**については、**必ず太字にしてください**。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
  - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。  
詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。









専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名						
				田中 裕子 (50) <令和5年4月>	田中 裕子 (51) <令和5年4月>	田中 裕子 (52) <令和5年4月>	
			専 助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ  看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習)  看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ  看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習)  看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人・高齢看護学実習Ⅴ (地域連携) 地域・在宅看護学各論Ⅰ 地域・在宅看護学各論Ⅱ 地域・在宅看護学実習 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(管理実習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	
				加藤 美穂子 (54) <令和5年10月>	加藤 美穂子 (55) <令和5年10月>	加藤 美穂子 (55) <令和5年10月>	
			専 助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	
				飯岡 愛星 (31) <令和6年4月>	飯岡 愛星 (32) <令和6年4月>	飯岡 愛星 (32) <令和6年4月>	
			専 助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	
				横山 久美 (51) <令和6年4月>	横山 久美 (51) <令和6年4月>	横山 久美 (51) <令和6年4月>	
			専 助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	
				中家 かおり (51) <令和6年4月>	中家 かおり (51) <令和6年4月>	中家 かおり (52) <令和6年4月>	
			専 助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	
				松房 好美 (51) <令和6年4月>	松房 好美 (51) <令和6年4月>	松房 好美 (52) <令和6年4月>	
			専 助手	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護の統合Ⅰ(演習) 看護の統合Ⅱ(演習) 看護の統合Ⅱ(実習)(課題別実習) 看護研究Ⅱ	
兼任	教授	廣田 佳彦 (64) <令和4年4月> 博士(教育学)	廣田 佳彦 (64) <令和4年4月> 博士(教育学)	廣田 佳彦 (65) <令和4年4月> 博士(教育学)	廣田 佳彦 (65) <令和4年4月> 博士(教育学)		
		哲学 東洋思想論 コミュニケーション演習	哲学 東洋思想論				
兼任	教授	松尾 博史 (60) <令和4年4月> 博士(工学)	松尾 博史 (62) <令和4年4月> 博士(工学)	松尾 博史 (62) <令和4年4月> 博士(工学)	松尾 博史 (62) <令和4年4月> 博士(工学)		
		統計学 数学 化学 生物学 生化学	統計学 数学 化学 生物学 生化学				
兼任	教授	花本 明 (63) <令和4年4月> 理学学士	花本 明 (63) <令和4年4月> 理学学士	花本 明 (64) <令和4年4月> 理学学士	花本 明 (65) <令和4年4月> 理学学士		
		物理学	物理学				
兼任	講師	川端 浩一 (43) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)	川端 浩一 (43) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)	川端 浩一 (44) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)	川端 浩一 (45) <令和4年4月> 修士(スポーツ科学)		
		健康と体力づくり スポーツトレーニング学 健康トレーニング演習 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	健康と体力づくり スポーツトレーニング学 健康トレーニング演習 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	健康と体力づくり スポーツトレーニング学 健康トレーニング演習 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	健康と体力づくり スポーツトレーニング学 健康トレーニング演習 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ		
兼任	教授	清水 隆吉 (69) <令和5年4月> 商経学士	清水 隆吉 (69) <令和5年4月> 商経学士	清水 隆吉 (70) <令和5年4月> 商経学士	清水 隆吉 (71) <令和5年4月> 商経学士		
		メディカルツーリズム論	メディカルツーリズム論				
兼任	教授	小原 教孝 (62) <令和4年4月> 専門学校卒	小原 教孝 (62) <令和4年4月> 専門学校卒	小原 教孝 (63) <令和4年4月> 専門学校卒	小原 教孝 (64) <令和4年4月> 専門学校卒		
		伝統医療論 わかやま未来学	伝統医療論 わかやま未来学	伝統医療論 わかやま未来学	伝統医療論 わかやま未来学		
兼任	教授	上 勝也 (61) <令和4年4月> 博士(医学)	上 勝也 (61) <令和4年4月> 博士(医学)	上 勝也 (62) <令和4年4月> 博士(医学)	上 勝也 (63) <令和4年4月> 博士(医学)		
		解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ		
兼任	教授	中村 允之 (74) <令和4年4月> 医学博士	中村 允之 (75) <令和4年4月> 医学博士	中村 允之 (76) <令和4年4月> 医学博士	中村 允之 (77) <令和4年4月> 医学博士		
		生理学 病理学	生理学 病理学	生理学 病理学	生理学 病理学		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	岸岡 史郎 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	薬理学	兼任	教授	岸岡 史郎 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	薬理学	兼任	教授	岸岡 史郎 (70) <令和4年4月> 博士(医学)	薬理学	兼任	教授	岸岡 史郎 (71) <令和4年4月> 博士(医学)	薬理学
兼任	准教授	雑賀 史浩 (44) <令和4年4月> 博士(医学)	微生物学	兼任	准教授	雑賀 史浩 (44) <令和4年4月> 博士(医学)	微生物学 薬理学 コミュニケーション演習	兼任	准教授	雑賀 史浩 (45) <令和4年4月> 博士(医学)	微生物学 薬理学	兼任	准教授	雑賀 史浩 (46) <令和4年4月> 博士(医学)	微生物学 薬理学 薬理学
兼任	教授	香山 勝 (65) <令和5年4月> 博士(医学)	病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)	兼任	教授	香山 勝 (64) <令和5年4月> 博士(医学)	病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)								
兼任	准教授	岡本 加奈子 (49) <令和4年4月> 博士(工学)	社会福祉学 社会保障制度※	兼任	准教授	岡本 加奈子 (49) <令和4年4月> 博士(工学)	社会福祉学 社会保障制度※	兼任	准教授	岡本 加奈子 (50) <令和4年4月> 博士(工学)	社会福祉学	兼任	准教授	岡本 加奈子 (51) <令和4年4月> 博士(工学)	社会福祉学
				兼任	教授	小林 茂 (68) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	小林 茂 (68) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	小林 茂 (70) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	教授	上西 晋裕 (63) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	上西 晋裕 (64) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	上西 晋裕 (65) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	教授	上埜 肇司 (52) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	上埜 肇司 (53) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	上埜 肇司 (54) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	准教授	大西 智也 (45) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	大西 智也 (46) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	教授	大西 智也 (47) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	講師	伊藤 秀幸 (45) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	准教授	伊藤 秀幸 (48) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	准教授	伊藤 秀幸 (47) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任								兼任	准教授	榎本 孝幸 (52) <令和6年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	講師	中島 龍彦 (46) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	講師	中島 龍彦 (47) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)				
				兼任	講師	宮原 崇 (39) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	講師	宮原 崇 (40) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	講師	宮原 崇 (41) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	助教	奥田 祥司 (42) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	講師	奥田 祥司 (43) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)				
				兼任	助教	國吉 光 (37) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	助教	國吉 光 (38) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	助教	國吉 光 (39) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	助教	林田 一輝 (33) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	助教	林田 一輝 (34) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	助教	林田 一輝 (35) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	助教	堀内 賢 (48) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	助教	堀内 賢 (49) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	助教	堀内 賢 (50) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)
				兼任	助教	松嶋 由莉 (28) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)	兼任	講師	松嶋 由莉 (30) <令和5年10月>	病態生理・治療学Ⅱ(リハビリテーション)				



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	マルティネス眞喜子 (49) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	マルティネス眞喜子 (46) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	マルティネス眞喜子 (47) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	マルティネス眞喜子 (48) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	マルティネス眞喜子 (49) <令和7年4月> 博士(看護学)
		国際看護論			国際看護論			国際看護論			国際看護論			国際看護論
兼任	講師	西上 あゆみ (57) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	西上 あゆみ (54) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	西上 あゆみ (55) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	西上 あゆみ (56) <令和7年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	西上 あゆみ (59) <令和7年4月> 博士(看護学)
		災害看護論※			災害看護論※			災害看護論※			災害看護論※			災害看護論※
						兼任	講師	池田 佳祐 (35) <令和4年10月>	兼任	講師	池田 佳祐 (36) <令和4年10月>	兼任	講師	池田 佳祐 (37) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	上野山 裕士 (37) <令和4年10月>	兼任	講師	上野山 裕士 (38) <令和4年10月>	兼任	講師	上野山 裕士 (39) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	尾花 正啓 (70) <令和4年10月>	兼任	講師	尾花 正啓 (71) <令和4年10月>	兼任	講師	尾花 正啓 (72) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	久保田 善文 (44) <令和4年10月>	兼任	講師	久保田 善文 (45) <令和4年10月>	兼任	講師	久保田 善文 (46) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	中島 紀生 (67) <令和4年10月>	兼任	講師	中島 紀生 (68) <令和4年10月>	兼任	講師	中島 紀生 (69) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	永瀬 節治 (44) <令和4年10月>	兼任	講師	永瀬 節治 (43) <令和4年10月>	兼任	講師	永瀬 節治 (44) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	瀬口 広平 (40) <令和4年10月>	兼任	講師	瀬口 広平 (41) <令和4年10月>	兼任	講師	瀬口 広平 (42) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	三木 保人 (44) <令和4年10月>	兼任	講師	三木 保人 (45) <令和4年10月>	兼任	講師	三木 保人 (46) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	村上 由希子 (45) <令和4年10月>	兼任	講師	村上 由希子 (46) <令和4年10月>	兼任	講師	村上 由希子 (47) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	山下 美一 (65) <令和4年10月>	兼任	講師	山下 美一 (66) <令和4年10月>	兼任	講師	山下 美一 (67) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	吉川 謙人 (49) <令和4年10月>	兼任	講師	吉川 謙人 (48) <令和4年10月>	兼任	講師	吉川 謙人 (50) <令和4年10月>
								わかやま未来学			わかやま未来学			わかやま未来学
						兼任	講師	關戸 智恵 (36) <令和5年10月>	兼任	講師	關戸 智恵 (37) <令和5年10月>	兼任	講師	關戸 智恵 (38) <令和5年10月>
								コミュニケーション演習			コミュニケーション演習			コミュニケーション演習
						兼任	講師	野塚 岳志 (48) <令和5年4月>						
								病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)						
						兼任	講師	小森 有紀 (47) <令和5年10月>	兼任	講師	小森 有紀 (48) <令和5年10月>	兼任	講師	小森 有紀 (49) <令和5年10月>
								病態生理・治療学Ⅳ(小児)			病態生理・治療学Ⅳ(小児)			病態生理・治療学Ⅳ(小児)
						兼任	講師	坂田 好史 (58) <令和6年4月>	兼任	講師	坂田 好史 (59) <令和6年4月>	兼任	講師	坂田 好史 (60) <令和6年4月>
								病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)			病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)			病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)
						兼任	講師	志波 光 (70) <令和6年4月>	兼任	講師	志波 光 (71) <令和6年4月>	兼任	講師	志波 光 (72) <令和6年4月>
								病態生理・治療学Ⅵ(精神)			病態生理・治療学Ⅵ(精神)			病態生理・治療学Ⅵ(精神)
						兼任	講師	谷野 裕一 (61) <令和6年4月>	兼任	講師	谷野 裕一 (62) <令和6年4月>	兼任	講師	谷野 裕一 (63) <令和6年4月>
								病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)			病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)			病態生理・治療学Ⅰ(成人急性期)



(1) ②担当教員表に関する変更内容

**【令和4年度】**

- ・教育体制を強化するため、令和5年度以降就任予定であった教員1名を令和4年度から採用。
- ・令和4年度就任した高田准教授が一身上の都合で前期末で辞任。後任者は令和5年度就任予定。
- ・令和5年度就任予定の非常勤教員1名が退職し新たな非常勤教員1名を採用。

**【令和5年度】**

- ・令和4年度就任した高田准教授が一身上の都合で前期末で辞任し、後任の宇城准教授が4月に就任。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年度就任予定の吉村助教が就任辞任。後任の田辺助教（現職は助手）について令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年度就任予定の川村講師が就任辞任。後任の永井助教が4月より就任。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年度就任予定の貞岡教授が就任辞任。北出准教授、木野准教授の2名で授業を担当。令和5年3月教員審査済み。
- ・令和5年度就任予定の市後講師が就任辞任。後任の中野助教（現職は助手）について令和5年3月教員審査済み。
- ・令和5年度就任予定の非常勤教員3名が退職、1名が前年度に死亡し、新たに非常勤4名を採用。
- ・鷲野講師就任辞任。後任未定であるが、令和5年10月から専任教員採用予定で公募する。

**【令和6年度】**

- ・令和4年度就任した赤星教授が一身上の都合で前期末で辞任し、後任の山崎准教授が4月に就任。令和5年12月教員審査済み。
- ・令和4年度就任した山本教授が一身上の都合で前期末で辞任し、後任の山崎准教授が4月に就任。令和5年12月教員審査済み。
- ・横谷助教が令和6年4月から講師に昇進。令和5年12月教員審査済み。
- ・助手1名を助教に昇進するため、令和6年5月教員審査提出済み。田中裕子を助教に昇進。
- ・兼任教員、兼任教員の変更のため、新たに非常勤講師7名を採用。

**【令和7年度】**

- ・令和5年度就任した藤本由美子教授が一身上の都合で前期末で辞任し、後任の南部教授が6月に就任。令和6年3月教員審査済み。
- ・令和5年度就任した池西哉教授が一身上の都合で前期末で辞任し、後任の原教授が6月に就任。令和6年3月教員審査済み。
- ・令和7年5月に木野准教授を教授に昇進するための教員申請を提出済み。
- ・兼任の岡本准教授が令和7年4月から教授に昇進。
- ・兼任教員、兼任教員の変更のため、新たに非常勤講師4名を採用。

(注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**原則としてA C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	6
12	名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高专】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
9	4	5	3	21	6	3	4	4	6	17	5
-3	-1	-1	-1	-6	-6						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
6	4	4	6	19	6	6	4	4	6	19	6
[Δ3]	[0]	[Δ1]	[3]	[Δ2]	[0]	[Δ3]	[0]	[Δ1]	[3]	[Δ2]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。

・「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。

・「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

・「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{19}{21} = \boxed{90.47} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{17} = \boxed{17.64} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{6}{6} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	貞岡 美伸	R5.3	必修	母性看護学概論	①	R5.3本人都合のため就任辞退（5）
				必修	母性看護学各論Ⅰ	①	
				必修	母性看護学各論Ⅱ	①	
				必修	母性看護学実習	①	
				必修	看護倫理学	①	
				必修	感染看護学	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（実習）	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
				必修	看護倫理学	①	
2	講師	川村 小千代	R5.3	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	R5.3本人都合のため就任辞退（5）
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	高齢者看護学各論Ⅰ	①	
				必修	高齢者看護学各論Ⅱ	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（実習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（実習）	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
				3	講師	市後 昌代	
必修	基礎看護学実習Ⅱ	①					
必修	高齢者看護学各論Ⅰ	①					
必修	高齢者看護学各論Ⅱ	①					
必修	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）	①					
必修	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）	①					
必修	看護の統合Ⅰ（演習）	①					
必修	看護の統合Ⅱ（演習）	①					
必修	看護の統合Ⅰ（実習）	①					
必修	看護の統合Ⅱ（実習）	①					
必修	看護研究Ⅱ	①					
4	講師	鷺野 貴子	R5.3	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	R5.3本人都合のため就任辞退（5）
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）	①	
				必修	地域・在宅看護学各論Ⅰ※	①	
				必修	地域・在宅看護学各論Ⅱ	①	
				必修	地域・在宅看護学実習	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（実習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（実習）	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
5	助教	吉村 牧子	R5.3	必修	社会保障制度	①	R5.3本人都合のため就任辞退（5）
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	高齢者看護学各論Ⅰ	①	
				必修	高齢者看護学各論Ⅱ	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）	①	
				必修	地域・在宅看護学実習	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（演習）	①	
				必修	看護の統合Ⅰ（実習）	①	
				必修	看護の統合Ⅱ（実習）	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	

合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
5	人	必修	23 科目	必修	23 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	23 科目	計	23 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退 (未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退 (未就任) の理由」に就任辞退の理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」</li> <li>・ 兼任担当教員が担当する (している) 場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	高田 美子	R4. 8	必修	基礎ゼミナール	①	R4. 8. 31付け一身上の都合のため辞任 (4)
				必修	リハビリテーション看護学※	①	
				必修	高齢者看護学概論※	①	
				必修	高齢者看護学各論Ⅱ	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅲ (リハビリ期)	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅴ (地域連携)	①	
				必修	看護の統合Ⅰ (演習)	①	
				必修	看護の統合Ⅱ (演習)	①	
				必修	看護の統合Ⅱ (実習)	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
2	教授	赤星 誠	R5. 10	必修	社会保障制度	①	R5. 10. 31付け一身上の都合のため辞任 (5)
				必修	カウンセリング論	①	
				選択	人間関係論	①	
				必修	看護理論と実践	①	
				必修	看護の統合Ⅰ (演習)	①	
				必修	看護の統合Ⅱ (演習)	①	
				必修	看護の統合Ⅱ (実習)	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
3	教授	山本 明弘	R6. 3	必修	精神看護学概論	①	R6. 3. 31付け一身上の都合のため辞任 (5)
				必修	精神看護学各論Ⅰ	①	
				必修	精神看護学各論Ⅱ	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	地域精神保健学	①	
				必修	看護の統合Ⅰ (演習)	①	
				必修	看護の統合Ⅱ (演習)	①	
				必修	看護の統合Ⅱ (実習)	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
3	教授	藤本由美子	R7. 3	必修	高齢者看護学概論	①	R7. 3. 31付け一身上の都合のため辞任 (7)
				必修	高齢者看護学各論Ⅰ	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅳ (生活支援)	①	
3	教授	池西和哉	R7. 3	必修	地域・在宅看護学概論	①	R7. 3. 31付け一身上の都合のため辞任 (7)
				必修	地域・在宅看護学各論Ⅱ	①	
				必修	地域・在宅看護学各論Ⅰ	①	
				必修	成人・高齢者看護学実習Ⅴ (地域連携)	①	
				必修	地域・在宅看護学実習	①	

合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
5	人	必修	35 科目	必修	35 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	36 科目	計	36 科目	計	0 科目	計	0 科目		

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
10	人	必修	58 科目	必修	58 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	59 科目	計	59 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{10}{21} = 47.61 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

退職する専任教員に関しては、後任の教員を公募を行い募集を行い、後任予定者について教員判定を受審している。また、他の専任教員で担当可能な授業科目に関しても、同様に教員判定を受審の上、変更を行っている。新たに2名の教授について、教員判定を受審し、令和7年5月に1名准教授から教授への昇進に係る教員判定を受審する。教育課程の進行に伴い、適宜教員の補充等を行っており、未開講科目も発生しておらず、授業科目担当に関して問題は無いと考えている。今後も計画的な教員確保に務め、設置計画の適切な履行に務める。教員交代に関する学生への周知方法は、オリエンテーション時に学科長から伝達している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	遵 守 事 項	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和4年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項	定年規定の趣旨を踏まえ、計画的な教員採用に向け教員組織の将来構想について学内で確認した。(4) (5) 助教から講師、助手から助教への昇進について教員審査を適宜受審した。(6) 准教授から教授への昇進について、教員審査を受審している。(7)	設置計画に基づき、計画的な教員公募及び内部での教員の昇任ができるよう、支援する。(4) (5) (6) (7)
設置計画履行状況 調査結果 (令和4年度)	該当なし			
設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	該当なし			
設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	大学設置基準(改正前)第10条及び別表第1に規定する必要専任教員数のうち、教授数が基準未達となっており、法令違反状態である。直ちに必要な専任教員を確実に補充し、不適切な状態を是正すること。	【AC】 指摘事項 (法令違反)	令和6年3月に2名の教授候補者について、教員判定を受審し、それぞれ「可」の判定を得た。加えて令和7年5月に准教授の教授への昇進に係る教員判定を提出している。(7)	あたりに6月から採用する教員2名と内部からの昇進によって、法律違反状態は解消される見込みである。さらに計画的な教員の公募及び昇進を行い、教育・研究環境の充実に努める。(7)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

**【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】**

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。

**【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】**

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）（7）」と記載してください。

**【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<和歌山保健医療学部 看護学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注)・1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 全学組織である「FSD推進委員会」に委員を選出している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>①令和6年7月31日 開催 参加者数18名、欠席2名 ②令和7年3月27日 開催 参加者数13名、欠席7名</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>第1回</p> <p>1) FSD研修の実施について 2) 授業評価アンケートの実施について</p> <p>第2回</p> <p>1) 令和7年度 FSD研修の実施について 2) 令和6年度授業評価アンケートの実施結果について</p>
--

## ② 実施状況

### a 実施内容

- ・ 教職員研修会

### b 実施方法

- ・ 教員・職員の資質向上のための研修①  
令和6年9月20日～27日 実施方法 オンデマンド配信  
講師：井池直美（臨床心理士・公認心理師） 「合理的配慮の義務化に伴う大学における支援の検討」
- ・ 教員・職員の資質向上のための研修②  
令和6年12月26日 実施方法 対面及びオンライン受講  
講師：大西満（日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科教授）  
「すべての学生に寄り添う教育：学生支援の新しい視点」

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 研修① 103名（大学全体）
- ・ 研修② 150名（大学全体）

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研修①は、令和6年度から新たに観光学部が開設され、新規に就任した教員も多いことから、昨年度実施した本学のカウンセリングルームでカウンセリングを担当している井池先生の講演をオンデマンド教材化し、配信した。その上で、Google Classroomにより受講確認を行った。新規採用者だけでなく、昨年度に受講した者も多く視聴し、合理的配慮に対する関心の高さがうかがえた。合理的配慮の歴史、課題、大学における先事例、合理的配慮の手順や留意点といった概要から具体的内容に及ぶ講演であり、受講者からは合理的配慮に関する理解が深まったとの感想が寄せられた。また、受講者からの感想は、井池講師にフィードバックし、本学カウンセリングルームの活動に活用した。

研修②は外部講師を招聘しての講演会である。  
和歌山保健医療学部の中之島キャンパスにおいて開催し、全てのキャンパスにおいて、オンラインによる相互接続で研修を行った。

学生個々の特性を見極め、合理的配慮の必要な学生をあらかじめ取り出して教育しない手法について、講師自身のこれまでの活動を含めて、どのように学生に寄り添うのかについて講演がなされた。また「ドライバーチェックシート」を用いた演習が行われ、各人の行動特徴の理解するための一助として活用された。

業務等により当日出席できなかった教職員のために、後日オンデマンド配信を実施した。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

実施の有無：有

### a 実施の有無及び実施時期

前期：令和6年6月17日～7月7日

後期：令和6年11月22日～12月6日

### b 教員や学生への公開状況、方法等

教員に対しては、各授業科目のアンケート結果及び自由記述をまとめた資料を配付した。また、専任教員には、授業評価アンケートの結果を踏まえた工夫した点、改善点などを記載したリフレクションペーパーの提出を求めている。

大学ホームページにおいて、アンケート結果をまとめた資料を公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## (3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
令和4年の1月半ばには成人式を発端とした感染拡大が発生し、後期期末考査前の4日間を完全リモート授業を実施し、試験期間も短縮した。1月のコロナ感染急拡大は想定外の状況であったが、学生・教職員の安全を確保しながら、教育の継続・提供に努めた。令和4年度の未開講科目及び廃止科目はなく、設置計画に基づき、授業等を実施できた。当初予定していた新入生向け研修や各種行事などについては、実施を見送らざるを得なかったが、このような状況下でも、課外活動や学友会活動をスタートすることができた。令和4年度は学内でも多くの学生が新型コロナウイルス感染症に罹患したが、適切な登校停止措置や学内での感染対策を講じた結果大きな混乱もなく、すべての授業や試験が対面で実施され、実習も滞ることなく実施できた。また、コロナ感染症の影響で十分な募集活動を行うことが困難な状況であったが、令和5年度入学生については、入学定員50名に対し53名の入学生を確保することができた。  
令和6年度入学生については、コロナの影響で医療系志望者が全国的に減少する中、定員50名に対し43名の入学生となった。  
令和7年度入学生については、広報活動の充実に努め、入学定員50名に対して48名の入学生となり、募集状況は改善している。  
和歌山保健医療学部看護学科は、令和7年度に完成年度を迎える。長期の学外実習が始まり、4年間の学びの集大成といえる卒業研究も開始される。和歌山県内における優れた看護専門職の養成という、設置の目的の達成のため学科全体で努力を重ねている。  
なお、専任教員の退任に伴う教授数の不足について、法令違反状態の指摘を受けたが、令和6年度中に公募を行い内部での昇進に向け、研究活動の支援を行った。これにより令和7年度中には法令違反状態は解消される見込みである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期  
・令和7年7月1日 公表

b 公表方法  
・大学ホームページ上に公開予定（令和7年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画  
・令和6年に評価機関（日本高等教育評価機構）による評価を受審。適合の判定を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。